

とまこまい びじゅつかん
苫小牧の美術館の

みりよく つた
魅力を伝える

ぴとま 第6号

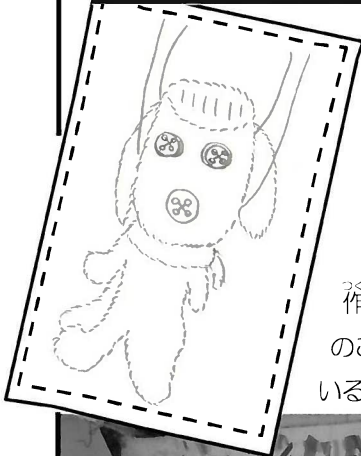
2013年7月号

2013年4月28日～5月6日まで樽前のギャラリーLEOで樽前arty2013が開催され、東京を中心に全国で活躍する男性手芸グループ「押忍！手芸部」の石澤彰一部長によるワークショップや北海道内外のアーティスト16名の作品が展示販売される樽前堂で多くの人を楽しみました。

また、5月3日～6日には「誰かが見たこの街」展が開催されました。会場の苫小牧市立樽前小学校では、札幌を中心に活動する三人のアーティストによる展示やワークショップが行われました。

樽前 arty 2013

と 誰かが見た この街 展

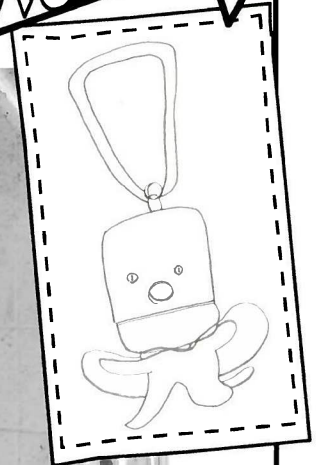
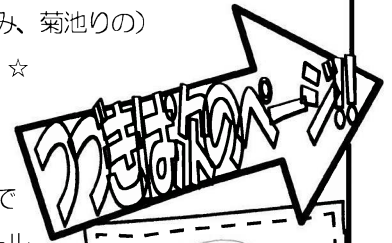


取材に行って、まず最初にびっくりしました。自分が思っていたより、作品がおもしろいものばかりだったからです。お客さんの山田くんに「よく乗るんですか？」と聞いてみると、「はい、そうです。実は、ここは元々は牛を飼っている小屋だったんですよ」と教えてくれました。(伊藤なつみ、菊池りの)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

押忍！手芸部の部活に参加しました。

作ったものは、『BBQ～YO!』。BBQとはバーベキューのことです。バーベキューをしているとき、ビールを飲んでいると、いろんな人のビールがあるので、どれが自分のビール





かわからなくなってしまう。でも、『BBQ～Y0!』があれば、自分のビールをその中に入れておけば、どれが自分か、わからなくならずにすみます!なぜなら首からぶら下げておけるからです。ほかにもウォークマンなども入れられてとっても便利です。スマホを横に入れてみ、とお母さんが言ったので、さすがに入るわけではないよーと言って、入れてみたら入りました。

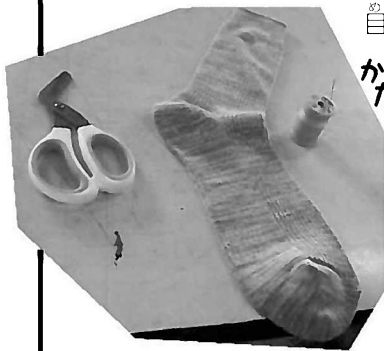
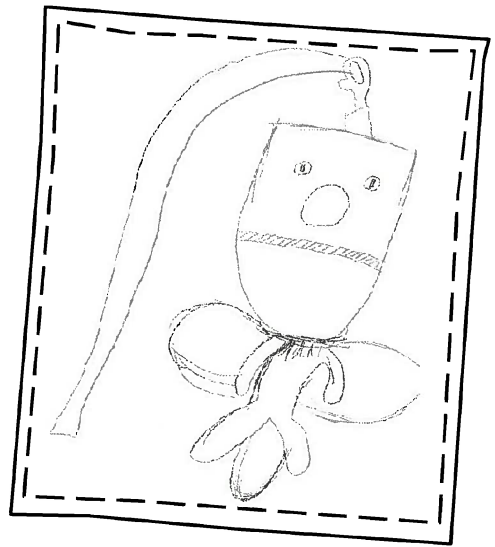
作り方を教えてくれたのは、押忍!手芸部の石澤部長です。石澤部長はショッキングピンクのド派手なジャケットが似合う明るい感じの人でしたが、とても人見知りと聞き、おどろきました。自分のことを「わし」と呼ぶ部長に初めて会ったときは、「とてもユーモアのある人だなあ」と思いました。わからないところをていねいに教えてくれて、とてもやさしい人でした。(菊池りの、本村朱里、望月王翔)

参加してみて、私カ知っている手芸と今回教えてもらった手芸だと、部長の手芸は自由な感じでした。(本村朱里)

『BBQ～Y0!』は作るのがとても大変で、特に、ボタンをぬいつける所や、布と布をぬい合わせる部分がむずかしかったです。お母さんの協力もあり、いろんな材料で工夫したりと、とてもいい経験ができました。今回、『押忍!手芸部』の部活をして、工夫を重ねることが大事だと思いました。これからも工夫を重ねることを続けていきたいです。(望月王翔)

『BBQ～Y0!』をつくってみて思ったことは、むずかしいなと思いました。ぬいものだったので、むずかしかったです。参加して、よかったなと思いました。(菊池りの)

私は、『ヨヨイ』というトングを使う人形を部長やみなさんと作りました。材料は、トングとくつ下があれば、糸でぬって、チョコチョコの形はできました。そのほかは、ボタンや毛糸などで、目や鼻などをかざります。(亀井川栞)



かたの足ふんのクツを...

ハサミで切っ...



ぬって切っ
ひっくり
かえすと...



樽前 arty
2013

『ステップ』づくりを体験させてもらい、いろいろな物で、すごい物を作れるんだなと思いました。次にまた来たら、ぜひにやりたいです。(佐々木健人)

押忍！手芸部の部活はいろいろあったけど、電池ボックスとかモーターとか機械っぽいものが好きなので、ロボぐるみの部活に参加することにした。

最初にかわいい犬のぬいぐるみのおもちゃの着ぐるみをはがして機械部分を取り出してから、靴下の先に綿をつめて頭にしたものを機械に着せて、ボタンをつけたり、かざりをつけたりして、自分だけのロボぐるみを完成させた。ほくは、緑の靴下を選んで、頭に黄色い靴下をギザギザに切った主かんをつけて、最初の犬についていた赤い首輪をつけた。完成したロボぐるみを樽前小で歩かせた。頭がかたむいていたから、まっすぐに歩かなかったけど、ほかのロボたちと一緒に歩いたり、すもうをしている様子がかわいかった。

いちごがいっぱい描かれた真っ赤なジャケットを着て、ヘアースタイルも面白い石澤部長はとても楽しい人だった。(荒井楓)

☆石澤部長インタビュー（菊池りの、本村朱里）

Q：作品はどうやって思いつくんですか？

A：いろいろな本を読んだり、TV、映画、散歩をしているときに思いつく

Q：一番印象に残っている作品は？

A：印象に残っている作品はないけどいろいろな作品を作っている部活の時間が印象に残っている

Q：押忍！手芸部の部員になるための条件は？

A：部活で作品を作ったら部員。今までの参加人数4,500人。オリジナル部員7人。

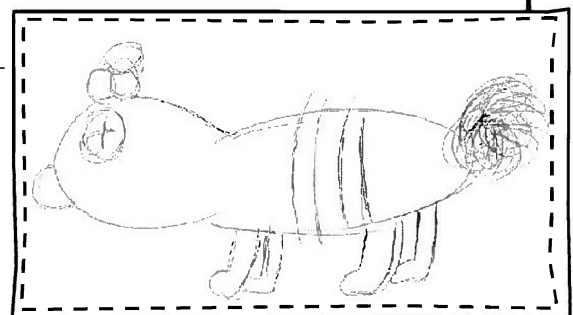
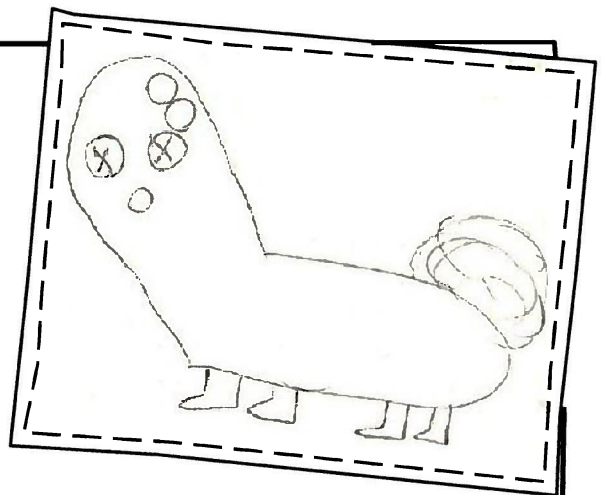
Q：部長は自分のことを「わし」と呼ん

でますが、いつから一人称が

「わし」なんですか？

A：2003年12月28日、押忍！

手芸部を始めた日から。



参加者たちと作品

石澤部長と本村朱里記者



アタマとカラダをぬいつけてハネもつけたよ



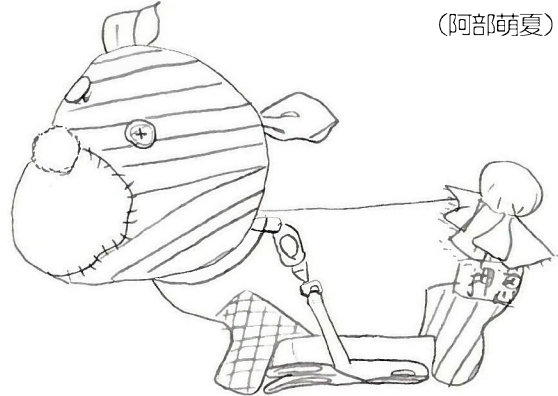
BBQ～YO！は、首から下げることができるストラップ付きポーキーだよ。ぬうのがニガテな人も一時間くらいで完成！！

樽前堂は、古小牧市だけでなく全国各地のアーティストやデザイナー16名の作品が展示販売されるお店です。ポチぶくろやお皿など生活で使えるものや額に入った絵やイラスト、かわいらしいものやカッコイイもの、いろいろな作品が並んでいました。会場では、作品を作った作家さんに来てお話も聞きました。

ぼくが、すごいな—と思った作品は「子ぎつね」(杉田真理作)です。毛糸みたいなもので作っていました。あと、押忍!手芸部の部活では Tongue でぬいぐるみを作っていました。Tongue で作るって聞いて、びっくりしました。樽前arty はおもしろかったです。(阿部天翔)



私が気に入った作品は、犬のぬいぐるみ(押忍!手芸部作)で、黄色や赤、青などのカラフルな色で、ちゃんとリードもついていて、おもしろくてかわいいなと思いました。私もなにかを作ったりするのは好きなので、そんなかわいい作品を作りたいなと思います。(阿部萌夏)

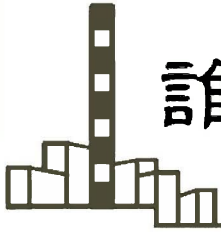


会場内をグタをはいて歩いていた人は、g_h_g_h という工房の高臣大介さん、洞爺湖出身のガラス作家です。高臣さんの作品は、とう明できれいです。男が使うような重いものを作ろうと思って作った『もえる男はロック』、『うちゅう・小・だ円』など、作品には、ちょっとおもしろいタイトルがついていました。洞爺湖や自分の体験したことをイメージして作っているそうです。タイトルを考えてから形を作る、あわの様子は重そうという薬品を使う、とげとげした形はガラスを切つて作る、花器は形がくずれないように気をつけて作ると教えてくれました。(荒井聖、伊藤なつみ)

おすすめな物は、ガラスの作品です。なぜなら、ガラスの中にいろいろな泡が入っており、ぼくは気に入って一個買っちゃうほど気に入ったからです。作者の高臣大介さんは、作っているときは、アーチ状にするのは難しいと言っていたので、ぼくは、とつてもびっくりしました。高臣大介さんが作っているガラスを見たい人は、札幌の中央通からバスターミナル線の地下の500M美術館で7/25(木)まで開催中の『質感覚』展にあるので、ぜひ見てください。(佐々木健人)



樽前arty
2013



誰かが見たこの街

『誰かが見たこの街』展では、道内作家3名の作品が展示され、アーティストトークも行われました。

参加作家の一人目は、フィルム写真家の竹本英樹さんです。2004年から人前に写真を出し、ニューヨークの作品より活動を始めたそうです。竹本さんは、実は、幼稚園から小学校5年まで苦

小牧に住んでいたそうです。私もびっくりしました。私たちの住んでいる苦小牧にいたなんて！

二人目は、日本画家の水野剛志さんです。在学中は人物を描いていたけれど、今は自然を描くことが多いそうです。花の絵は約3から4時間もその場で描き続けているそうです。

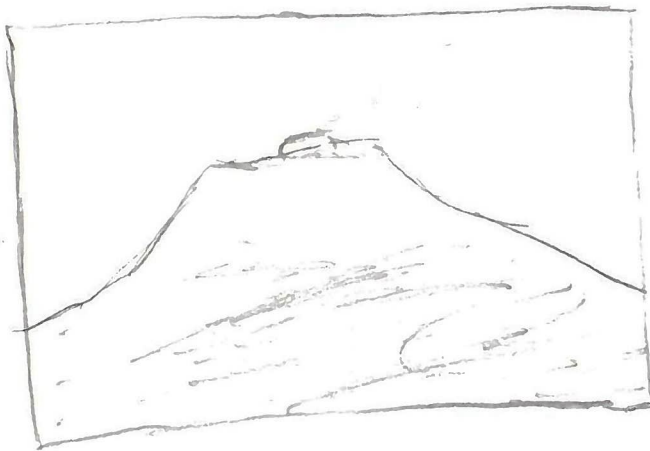
三人目は、建築家の山田良さんです。昔はノルウェーのオスロに住んでいて、今は大学で建築を教えているそうです。2から3年前から札幌に住んでいるそうです。

私が一番印象に残ったのは、水野さんの山の巨大な絵です。樽前山の絵です。とても美しかったです。(浜明日美)

私は、樽前小で、日本画家の水野剛志さんによる『つながる山の絵』のワークショップに家族で参加しました。私は山と山の間に桜の木の絵を描いて、ママとママのとなりにならぬお友だちのところにも花びらが飛んでいくような絵を描きました。となりの絵とつながるようにクレヨンで描いた絵を指でこすってぼかす方法を教えてもらいました。最後に体育館のかべにはって、全員の絵が繋がったところがおもしろかったです。(荒井聖)



アーティストトークでは、『誰かが見たこの街』展に参加している三人の作家さんと、『誰かが見たこの街』展を考えた学会員の門間さんのお話を聞きました。

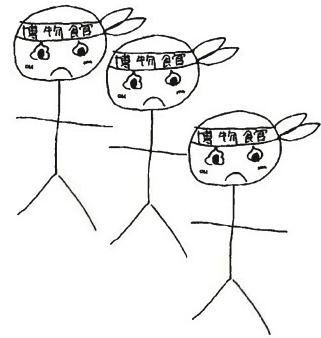


日本画家の水野剛志さんの作品は、樽前小学校の体育館に展示されました。体育館の中央に置かれたピアノの周りには北海道のあちらこちらの景色の絵がバラバラと置いてありました。壁には、長い長い「つながる山の絵」がぐるりと体育館を囲むように貼られていました。そして、壁の高いところには、大きな大きな樽前山の絵が飾られていました。



ねん がつ にち
2013年7月27日

とまこまいしびじゅつはくぶつかん
苫小牧市美術博物館
いよいよオープン!!



増築(※1)・改修(※2)工事が終わってオープンに向けて準備中の展示室を取材しました。

第一展示室に入る前のラウンジには、寄贈(※3)された大きなふりこ時計があった。

第一展示室は完成してからしばらくは、そのまましておくそうだ。理由は部屋を乾燥させるためだそうです。第一展示室は、ほかの展示室とは違って、新築で、一番天井が高くきれいで、またLEDのスポットライトで照らして絵を見ることができ、カベは作品が見やすいように白い色だった。展示室には、防犯カメラがあった。

第二展示室は、元の特別展示室です。作品を展示するためのガラス張りの固定ケースがあります。空気をきれいにするために送風機が置いてあった。壁には、湿気や悪い空気を吸い取るために、茶色の穴が空いた板が置いてあった。

第三展示室は、作品展示のほかにも映画や映像などが見れる部屋で、プロジェクターが置けるようになっていた。

休けいスペース(ラウンジ)には、いろいろなテーブルとイスがあり、文化公園が一望できます。飲み物を飲んだりすることもできるスペースです。

博物館が美術博物館になるのが、すごく楽しみです。(荒井聖、熊谷理菜、望月王翔)

※1 増築：すでにある建物に付加えて建てること。

※2 改修：建物などの悪い部分を直すこと。

※3 寄贈：市民が品物を、「役立ててほしい」と博物館や美術館などに贈ること。



オープンから
がっ てんじ よてい
 3月までの展示の予定

- 7月27日～8月25日 『古小牧市美術博物館開館記念 出光美術館 日本陶磁名品選』
- 9月7日～9月29日 『遠藤ミマン生誕100周年記念展 勇弘原野を愛して』
- 10月12日～11月24日 『古小牧開港50周年記念展 夢を形に～砂浜と原野にいだ時代』
- 12月10日～12月23日 『第7回 北海道現代具象展』
- 1月11日～2月16日 『子どものための美術展』
- 3月1日～3月30日 『おはなしミュージアム／手で観るミュージアム』

などの展示を予定しています。

「遠藤ミマン生誕100周年記念展 勇弘原野を愛して」の
 ミマンさんは、古小牧で美術が栄えるよう、せいっぱい
 努力した画家です。ミマンさんが生まれて100年になることを
 記念して、おもな作品80点からミマンさんをふり返る展覧会をします。
 ミマンさんは、美園小の校歌を作った人です。校歌は四番まであります。一番の歌詞に
 は楽器の名前が出てきます。二番には美園小の係の名前が出てきます。三番には、花の名前が
 出てきます。キンレンカという名前の花です。四番には、ナナカマドという木の美の名前が出てきます。
 一番と四番しか歌わないときもあります。私が歌詞の中でいいと思った言葉は、芝生に寝転ぶという言葉
 です。美園小は、かたつむりみたいにゆっくり、のんびりやろうということなので、芝生に寝転ぶというのが、
 のんびりしているなあと思い、この言葉にしました。美園小の校歌はとて素晴らしい歌詞だと思いました。

(菊池りの)

『おはなしミュージアム』は、生物担当学芸員の小玉さんが企画した展示で、昔話に出てくる道具や動物や植物を
 展示します。つづらやみのやかさなどを展示する予定で、そのお話の生まれた時代や環境を知ることができます。

(伊藤なつみ) 7

おもしろいひよこをつくりたい人 みんな集まれ!!

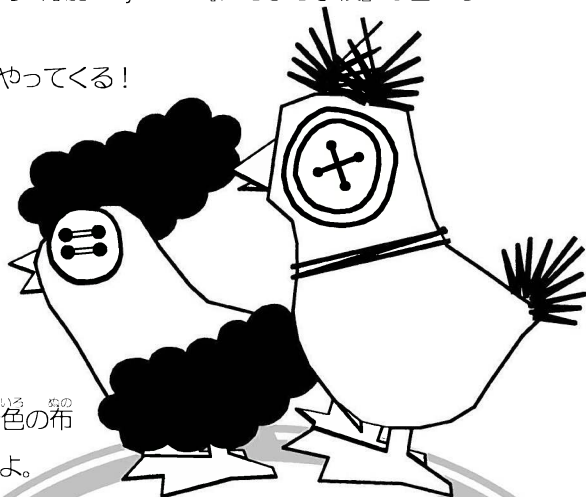
びとこまの記者になってみたい人

文化公園アートフェスティバルで『たるまる学校』を開校します!!樽前arty+の『たるまる学校』は色々な体験ができる講座がたくさんあるよ!

今回の『びとこま』で紹介した「押忍!手芸部」右澤部長もやってくる!
樽前arty+と一緒にみんなで楽しいものをつくっちゃおう!

◎押忍!手芸部 部活の時間「カラーひよこ」

と き : 7月28日(日) 1000~1200
と ころ : 苫小牧市博物館 研修室A
参加できる人 : 小さい子どもから大人まで
参加できる人数 : 30名 申し込み順
講座の内容 : ゼンマイで動くひよこのおもちゃを色々な色の布や毛糸で包いで『カラーひよこ』をつくるよ。



◎美術館広報部 『号外びとこま』をつくろう!

と き : 7月28日(日) 1000~1200
と ころ : 苫小牧市博物館 研修室B
参加できる人 : 小学生から中学生
参加できる人数 : 10名 申し込み順
講座の内容 : 新しい美術館をみんなに広める

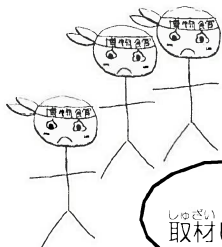
さんかむりょう
参加無料!!

申し込み、お問い合わせは生涯学習課へ電話、またはメール

0144-32-6749 (平日の8:45から17:15)
SHOGAI@CITY.TOMAKOMA.HOKKAIDO.JP

7/1スタート! 7/24(水)〆切!!

ために記者になって取材して記事を書いて『びとこま』新聞の特別版をつくるよ。



苫小牧市内小中学生の記者たちと樽前arty+が市内外の文化芸術情報を取材し、苫小牧の美術館の魅力を伝える広報紙『びとこま』がインターネットで読めるようになりました!
インターネットから『びとこま』を読むには、

<http://www.city.tomakoma.hokkaido.jp/hakubutukan/bitokoma.htm>

または<http://tarumae.com/publish>にアクセスしてみてくださいね。
感想などメッセージをお待ちします♪

製作 : 美術館広報部
取材 : 阿部天翔、阿部萌夏、荒井楓、荒井聖、伊藤なつみ、菊池りの、
亀卦川菜、熊谷理菜、佐々木健人、佐藤かりん、千葉心美、
浜明日美、本村朱里、的場翔、望月王翔、山本舞羽
編集 : 樽前arty+、小河 けい
発行 : 苫小牧市博物館
(お問合せ) 〒053-0011 苫小牧市末広町3丁目9番7号
tel 0144(35)2550 fax 0144(34)0408
HP www.city.tomakoma.hokkaido.jp/hakubutukan/
e-mail hakubutukan@city.tomakoma.hokkaido.jp

(▽) 協力をお願い (▽)

「美術館広報部」の記者であることを証明するカードを提示された方は、取材へのご協力をお願いいたします。疑問点や確認等が必要な場合、博物館までご連絡をお願いいたします。

